

# 事業実績（視察）報告

会派名：公明党西尾市議団

## 1. 視察の概要

- (1) 目的 会津人の心を育てる行動指針  
「あいづっこ宣言」について
- (2) 日時 令和元年10月8日（火）  
10時～11時30分
- (3) 場所 福島県会津若松市  
会津若松市役所
- (4) 参加者 大河内博之



## 2. 主な質疑・答弁

Q、「あいづっこ宣言」が策定された背景はどのようなか。

A、平成13年頃は、青少年を取り巻く環境が厳しかったため。

- ・全国的に少年犯罪が増加
- ・社会で守らなければならない基本的なルールについての認識の希薄化等

市民が一体となった取り組みが必要と感じたため、「人づくり」こそ地域発展の礎であり、教育に力を入れてきた歴史と伝統に基づいて、「什の掟」を参考に市民共通の行動指針を宣言した。

Q、「あいづっこ宣言」は、どのようにしてできたか。

A、青少年非行の現状について、学校・補導関係者及び警察関係者からの聞き取り及び意見交換をした。

市政だよりに青少年の心を育てる市民行動プランの趣旨を掲載し、市民からの意見を募集した。

青少年の心を育てる市民行動プランの素案作成と提言書をまとめた。

平成14年1月「青少年の心を育てる市民行動プラン」提言書を作成し、市長に提出した。

Q、「あいづっこ宣言」の提言書の作成にあたり、どのようなことに配慮したか。

A、問題、課題の把握、プランの作成については、関係者や市民の意見を聞き、活かす

ようにした。

文言は、市民全体で取り組めるように、誰でも暗唱できるわかりやすいものにした。

Q、「あいづっこ宣言」に込められた思いとは、どのようなことか。

A、一 人をいたわります

お年寄りや弱い人もかけがえのない人間として大切に思いいたわる

二 ありがとう ごめんなさいを言います

「おかげさま」の気持ちを持つ

三 がまんをします

甘えをおさえ、わがままを言わない

四 卑怯なふるまいをしません

自分さえよければという考えで行動しない

五 会津を誇りに年上を敬います

会津の歴史や文化を知り、先人や親そして年上を敬う

六 夢に向かってがんばります

目標実現に向かって、くじけず努力する

Q、「あいづっこ宣言」の推進母体はどのようなか。

A、会津若松市青少年育成協議会を推進母体として、各種事業を実施している。

Q、「あいづっこ宣言」に関する啓発活動は、どのようなことを実施しているか。

A、・市広報誌やHPでの広報活動

・立て看板の設置

・あいづっこ宣言CDの活用

・のぼり旗の作成

・「あいづっこ宣言表彰」の実施

・「あいづっこ宣言暗唱合格証」の授与

Q、「あいづっこ宣言」に関する具体的な実践活動はどのようなか。

A、・地区ごとに補助金を交付し、独自の啓発活動を実施。

・市民全体での朝のあいさつ運動を地域の方の参加により実施。

・青少年健全育成街頭啓発キャンペーンの実施。

・小中学生を対象とした「あいづっこ宣言」に関する作品を募集。

Q、「あいづっこ宣言」の習熟度はどのようなか。

A、市政アンケートにおいて、ほとんどの市民が「あいづっこ宣言」を見たり聞いたりしたことはあると回答。

かなりの習熟度であると感じている。

### 3. 所見 ・ 西尾市政への反映に向けた課題

- ・会津といえば、以前から人材育成に長けた地域だというイメージがあったが、昨今、大人の規範意識の低下や地域連携意識の希薄化などがあげられる中で、自治体として「あいづっこ宣言」で地域社会全体に向けて取り組まれていることに感銘した。西尾市においても、人づくり、人材育成という観点から次世代の人材育成にも力を入れていただきたいと感じた。

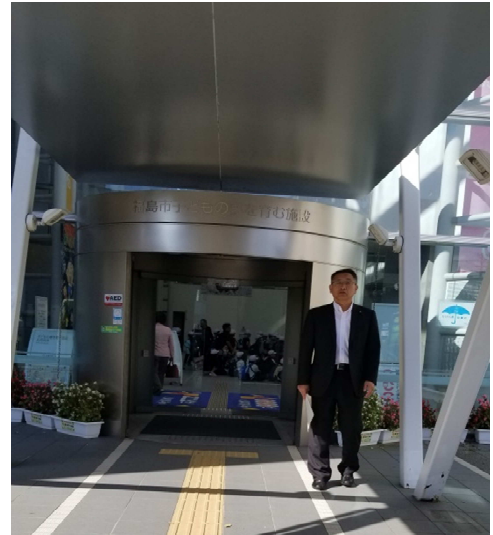


# 事業実績（視察）報告

会派名：公明党西尾市議団

## 1. 視察の概要

- (1) 目的 子どもの夢を育む施設  
「こむこむ館」について
- (2) 日時 令和元年10月9日（水）  
10時～12時
- (3) 場所 福島県福島市  
「こむこむ館」
- (4) 参加者 大河内博之



## 2. 主な質疑・答弁

Q、「こむこむ館」建設に至った経緯はどのようなか。

A、文化センターの取り壊し決定を受けて中心市街地に多世代交流施設を建設することにより、中心市街地の活性化を図ることを目的とした。

Q、土地購入費、建設費はいくらだったか。また、どのような補助金を活用したか。

A、土地購入費は23億5千万円、建設費は53億4千万円。

太陽光設備で1,290万円の1/2、屋外部分の緑化整備に国から756万円の補助金を受けている。

Q、公益財団法人福島市振興公社と福島市の関係はどのようなか。

A、現在は、「こむこむ館」を含む9施設の文化財を中心に、指定管理者となっている。

Q、「こむこむ館」の人件費と職員数はどのようなか。

A、人件費は、約1億円。

職員の内訳は、正規職員7人、嘱託職員・学習指導員6人、臨時職員11人、学生アルバイト7人、合計31人

Q、利用率の高い施設及び低い施設はどこか。

A、利用率の高い施設は、時間800円で利用できるリハーサル会場。

利用率の低い施設は、子どもキッチン。

Q、完成後 14 年経過した現在の補修費用はどのようなか。

A、まだ、大規模補修はない。

今年度コンピューター関係の更新をした。

消防設備費として、市から年間 250 万円の支出。

Q、利用者の感想はどのようなか。

A、新たなイベントの企画や有名人の招致などの要望や、施設的には下りエレベーターを設置して欲しいなどの要望がある。



### 3. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

- ・「こむこむ館」は、子どもたち一人ひとりが未来に向けて大きな夢を育み、その夢の実現に向けてたくましく挑戦してほしいという願いのもと、子供たちに未知への誘い、感動体験などの豊かな出会いを提供することにより、子どもたちの健やかな成長を支え、学びの芽を広げる土台づくりの一助とすることを目的とした点に感銘した。NHK福島との土地の共同購入やNHK福島と共同した施設整備計画であった点にスケールの大きさを感じる。NHK福島支所が併設してつながっていることで、NHK福島との連携した事業ができることにも驚かされた。幅広い年代向けの企画が考えられており、幅広い年代の方たちが交流できることも羨ましく思えた。

## 収支報告

項目	支出金額	備考
調査研究費	74,270 円	旅費 74,270
資料作成費	円	
資料購入費	円	
事務費	円	
計	74,270 円	